opusdei.org

教皇メッセージ

勉学と仕事は人々に奉仕する もの

2002/04/02

毎年、聖週間にローマで開かれている「UNIV(ローマ世界学生会議)」2002で約4,000人の参加者がパウロ6世ホールで教皇と謁見した。そのときの教皇講話の要約

属人区オプス・デイが企画運営しているこの研修に参加した若者に対して、教皇は次のように述べた。

「勉学と仕事、これらは責任をもって任務を果たすことであり、自己の生き方そのものを映し出す行為のようとを考えていまり、大力の人に開かれ行為になることを考え、自分の人に開かれ行為になることを考えいみならし、若いみを発見し、若いみます」の一人が完成されていきます」

「今年、生誕百年を迎えた福者エスクリバーの教えは、とても役に立ちます。福者が度々話したことですが、聖書を見れば、イエスは大工として、また大工の子として知られていたのです|

「福者が書いておられることですが、仕事の尊厳と偉大さは、どれだけ心を込めたかにかかっています。この研修に参加した皆さんが、しっかり勉強し、心を込めて働くなら、世界中で地の塩、世の光になることができます。これは、今年催される

ワールド・ユース・デイのテーマで もあります。また、現代社会の考え 方としばしば食い違う、困難な道で す。周囲の流れに逆らって、今の若 者の間で普通に見られる生き方に対 してはっきりと抵抗することが必要 になるでしょう」

「いい加減な生き方や自己満足に警戒してください。そうしてのみ、人生が人々への奉仕になり、生きることが賜物になります。また、技術が進歩したにもかかわらず、その恩恵に浴さない貧しい人々が社会にいます。これらの傷ついた、苦しむ人々のために貢献できるでしょう」

「これら全てが実現するために、まず祈りから始めることが不可欠です。(・・・)若いみなさん、寛大な心で活動してください。ただし、同時に神様の神秘を深く黙想してください。ご聖体が一日の中心になるようにしてください」

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/jiao-huang-metsusezi/ (2025/12/13)